

平成21年度 兵庫県立人と自然の博物館協議会議事録

日時 平成22年3月11日(木) 15:30~17:00
場所 県立人と自然の博物館 実習室

1 出席者及び司会進行

○委員(敬称略、五十音順)

石原、井上、梶元、上甫木、貴多野、小林、寺見、端、山西(委員長)、吉田

○人と自然の博物館及び社会教育課

岩槻館長、中瀬副館長、森次長、西向館長補佐、高橋部長、服部部長、田原室長、平松課長、藤村課長、三枝室員、小館室長、川東主査、梶本主査、坂本指導主事(社会教育課)

○司会:西向館長補佐

2 議事

○挨拶

岩槻館長

○報告事項

博物館の活動について
今年度の活動報告について

森次長
高橋部長

○協議事項

来年度の事業計画について
恐竜化石等発掘状況報告及び今後方針について

高橋部長
三枝主任研究員

○質疑・意見

- ・委員 生物多様性について、人博からもっとコマーシャルしてほしい。
- ・委員 中期目標ですが、既に達成されている項目について等、目標値の修正を考えるとどうか。
- ・博物館 中期目標は、5年間の期間で定めたもので、基本的に修正は考えていない。実際は、中期目標とは別に、毎月の月例会議において、さらに細かい数値を設け評価を行っており、それで対応出来ていると考えている。
- ・博物館 中間目標の数値は、あくまでも数値であり、数値は相対的なものなので常にその内容を、評価、議論し続ける事が、重要だと考えている。
- ・委員 生涯学習を展開している中で、博物館で育った子供が、博物館を支援してくれるような人材に育っているような例はあるか。
- ・博物館 ボルネオジャングルスクールの卒業生をはじめ、多くの人材が育っている。共生のひろばにおける連携グループでの活動など、人博を支援する人材となっている。
- ・委員 巨大なロボット(ガンダムや鉄人28号)などが、都市を賑わせている。日本の技術を駆使して、恐竜の巨大ロボットを作って、それが博物館を出て歩き出したら、面白いと思うがどうか。
- ・委員 USJのように、3D空間でその恐竜が動いたら、もっと楽しいと思う。
- ・博物館 残念ながら、現在の博物館では、建物的にも財政的にも制約があり厳しい。博物館から飛び出すというのは面白いアイデア。現在、ペンディングになっている新たな「ひとはく基本計画」では、もともと「おどろき」というコンセプトを持っていたので、ぜひ再開した時には取り入れたい。

- ・委員 COP10関連のツアーについて、旅行社との連携はどうか。エコツアーなどの利用により、現地で頑張っている人のサポートにつながるのではないかと。
- ・博物館 兵庫県とフランス・アヴェロン県との協定などの人博の実績に基づいて行っている。旅行社との連携よりも、各機関と連携していく事を基本としている。
- ・委員 高等学校の利用が少ないと思うので、高等学校を対象に、もっと広報してはどうか。例えば、高校生をターゲットにした企画を持って、学校を訪問して広報する等、教員にもっと知ってもらうことが重要。
- ・博物館 高等学校との連携は、県立大学付属中・高をはじめ、有馬高校、御影高校など、かなり行っている。
- ・博物館 学校を対象としたプログラムは多く、受け皿は十分ある。
- ・委員 たくさんの良い企画があるが、知らない教師が多いと思う。
- ・委員 財政的にもマンパワー的にも厳しいが、来年度は広報に地域担当を置く計画をしている。
- ・委員 ひとく手帖のアピールをもっとすべき。館内にポスターを貼り、ひとく手帖の配布をアピールするだけでも効果があると思う。
- ・委員 子育て支援の立場から、小さな子どもを持つ夫婦が、セミナーに参加出来るように託児付きの講座をしてほしい。また、館内が暗くて怖がる小さな子どもが多いので、館内を明るくしてもらえれば嬉しい。
- ・博物館 5歳以下もターゲットにした博物館も考えていきたい。

3 閉 会